



フランス語フランス文学コース



大学院文学研究科

フランス語フランス文学コースで 授業を担当している教員の紹介

2025 年度

教 員 名	専 攻 分 野	研 究 内 容
井上 櫻子 2307	18 世紀 フランス文学・思想 アダプテーション	18 世紀特有のジャンルである描写詩とルソーやディドロの人間論との関係や、『百科全書』の無記名項目について研究しています。また、文学作品の舞台芸術（特にオペラやバレエ）へのアダプテーションにも関心を持っています。
小黒 昌文 2303	19・20 世紀 フランス文学 近現代小説	専門は近代フランス文学。特にマルセル・ブルースト(1871-1922)の研究をしています。文芸翻訳にも魅力と意義を感じており、現代小説をはじめとした文学作品の翻訳紹介も大切な仕事のひとつです。
鈴木 雅雄 2309	20 世紀フランス 文学・芸術	専門はシュルレアリスム研究。今後は特に、狭義の美術だけでなく、マンガや絵本、ポスターなども考慮に入れつつ、視覚文化論的な広い文脈でシュルレアリスムの造形活動を位置づけることを課題にしていくつもりです。
デュスッド, オディール 2302	古典文学 レトリック	17～18 世紀フランス文学研究（小説、演劇、詩）。フランコフォニーの小説を含め、フランス語で表現している現代の小説家についても研究しています。
酒井 智宏 33-1502	理論言語学 言語哲学	統語論、意味論、語用論の研究のほか、意味の成立基盤に関する哲学的考察、理論言語学の諸概念の科学哲学的検討を行っています。
ビゼ, フランソワ (東京大学)	フランス現代文学 思想	フランスの現代文学と現代思想の研究。
塚本 昌則 (東京大学名誉教授)	フランス近代文学	専門は近代フランス文学。ポール・ヴァレリー (1871-1945) を中心に、断章という形式、夢と覚醒、イメージの活用法、人文科学との接点などの視点から、20 世紀文学を研究しています。クレオール文学にも興味を抱いています。

☆ 教員名の下の数字は研究室番号

☆ コース室：39 号館 3 階 2319

☆ コースのメールアドレス：salut@list.waseda.jp

☆ HP：http://flas.waseda.jp/french/

☆ Twitter：早稲田仏文 officiel (@WFutsubun)

文学研究科フランス語フランス文学コース

2024 年度修士論文題目一覧

ドーノワ夫人の作品における動物について
国民公会議員ル・バ
—人物像およびサン＝ジュストとの関係—
小説における死生観
—福永武彦とボードレール、魂の共鳴
ポール・ゴーガン『快樂の家』に関する総合的研究

2023 年度修士論文題目一覧

記憶のメディウムとしてのバンド・デシネ
—リーニュ・クレールのそのむこう—

2022 年度修士論文題目一覧

エミール・ゾラ『ルーゴン・マッカール叢書』における近親相姦の表象
日本におけるアンドレ・ブルトン『黒いユーモア選集』の受容について
——花田清輝と澁澤龍彦のケースを中心に
字幕の現状と展望

2021 年度修士論文題目一覧

アンドレ・ブルトンにおける神話の問題について
——記号の残存とシニフィアンの誕生
バルザック作品における「もの」の移動
ジャン／ハンス・アルプとゾフィー・トイバー＝アルプの芸術活動における自律と連帯 —
—グリッドを中心に——
クリスチャン・ディオール論
——個人に残る記憶、コレクションに宿る個性——
ミシェル・ウエルベック論 ——「視点」「視覚」を考える——

2020 年度修士論文題目一覧

ブルーストにおけるエクリチュールと身体感覚
初期バタイユの政治思想について
国際シュルレアリスム展における紐の意匠について
—マルセル・デュシャンを中心とした亡命者のイマジュリー—

2019 年度修士論文題目一覧

マリヴォー『哲学者の書斎』における感化の問題
『教訓化オウィディウス』と『図説変身物語』の比較
—太陽神の恋を中心に翻案と図像から辿る表現の変遷—
シャルル・バルバラ『感動的な物語集』論
アンドレ・マッソンのオートマティスム
—1920 年代シュルレアリスムにおける文学と美術の問題—

2018 年度修士論文題目一覧

フィリップ・キノー『芝居じゃない芝居』La Comédie sans comédie 論
—「他とは全く異なるこの芝居」を考える—
ヴィリエ・ド・リラダン クレール・ルノワール論
ブルースト「スワンの恋」

2017 年度修士論文題目一覧

ミシェル・ド・モンテーニュ『エッセー』における「信と知」
メーテルリンク『温室』に於ける「人工」のテーマ・主題・手法の観点から—
ルイ＝フェルディナン・セリーヌの作品におけるデリール表現と「選択 (オルタナティヴ)」
の問題
30—50 年代の精神病理論を中心とするラカン理論の創造性の問題について
—シュルレアリスムと主体—

2016 年度修士論文題目一覧

トリスタン・ツァラにおける「近似」の概念
アンリ・ミショーにおける言語とイメージの問題
マリー・ンディアイの作品における家族崩壊
20 世紀における美容文化史の日仏比較

2015 年度修士論文題目一覧

アロイジウス・ベルトラン『夜のガスパール』研究—作品の構成をめぐって—
『エロディアドの婚礼』論
サルトルの美術批評とモラル
ルイ＝ルネ・デ・フォレ『オスティナート』—冒険的エクリチュールによる自伝—
マリーズ・コンデの小説作品における「喜劇性」

2013 年度修士論文題目一覧

バルザックにおける奇形

ボードレールにおけるダンディズムの変容

La féminité entre nature et factice dans *L'Ève future de Villiers de l'Isle-Adam*

ジョルジュ・バタイユにおけるテキストの演劇的＝パロディ的位相

—『ジル・ド・レ裁判』研究序説—

2012 年度修士論文題目一覧

L'effet noir de la mémoire : Études sur *Le Voyageur sans bagage* de Jean Anouilh

ジョルジュ・バタイユの小説と物語について

『人生使用法』における記憶のトポグラフィー制約から記憶術へ—

2011 年度修士論文題目一覧

日本の大学におけるフランス語教育の現状と展望

代名動詞再考—その統一的理解を目指して、周辺事象の考察と提案—

アポリネールの『カリグラム』—見ること、魅せること—

ポール・ヴァレリー、語りのヴァリエター評論における言説の方法をめぐって—

ドゥルーズにおける時間イメージ

La chanson féministe et l'empowerment : le cas d'un groupe de musique québécois

2010 年度修士論文題目一覧

「貧しき縁者」に関する考察

L'errance dans l'oeuvre d'Albert Cohen

アルベール・カミュ論—『ペスト』という小説の試み—

マルグリット・デュラスのエクリチュールについて—「愛」を中心に—

シュルレアリスムの視覚体験とヴァリエーションの問題

—プリミティヴ・アート、アール・ナイフ、ケルト芸術、霊媒芸術—